

平和の鐘（小原六六庵）

吁嗟 鐘が 鳴る 平和の 鐘が

復興 日本 其の 礎を 聞け

当年の原爆 那の 辺にか 落つ

悪夢 抛ち 来たる 争戦の 跡

髑髏 肃々として 鬼火 春き

累々たる 瓦礫 我が 胸を 衝く

復興の 広島 又 長崎

吁嗟 鐘が 鳴る 平和の 鐘が

吁嗟鐘鳴平和鐘 復興日本聞其礎
當年原爆邦邊落 悪夢抛來争戦跡
髑髏肃肃鬼火春 累累瓦礫我衝胸
復興廣島又長崎 吁嗟鐘鳴平和鐘

解説 日本に投下された原爆の悪夢を述べた詩。

語釈 ※平和鐘＝原爆被災者広島悲願結晶の会によって核兵器や戦争のない平和な世界への祈りを込めて鐘造りの人間国宝、香取正彦氏によって造られたシンボリック建造物。※原爆＝原子核が起す核分裂反応を使用した核爆弾。
※抛＝ほうり投げる。抛棄。※争戦＝戦争。※髑髏＝肉の落ちた頭骨。されこうべ。※肃肃＝つつしみうやまう。※鬼火＝闇の夜などに燃えて浮遊する青白い燐光。人の死骸が放つ光。※春＝※累累＝積み重なっているさま。
※瓦礫＝破壊された建造物の破片など。

通釈 ああ、鐘が鳴る。平和の鐘が鳴る。復興した日本の、その足音を聞いてほしい。投下された原爆は、どのあたりに落とされたのだろう。原爆による被害は悪夢のような光景をもたらし、戦争による残骸はむごい。人々の頭骨が散乱し、燃えて浮遊する青白い燐光が消え去らずに空中を漂っている。破壊された建造物の破片が積み重なり、私の胸に衝撃を与える。原爆を投下された広島と長崎が復興の兆しを見せ始めている。ああ、鐘が鳴る。平和の鐘が鳴る。